

伝統ある早稲田のサークル文化を

ともに守り、発展させよう！

新入生のみなさんは、新歓活動でにぎわうキャンパスや学生会館、大隈講堂裏部屋にはもう行ってみたいでしょうか？ たくさんのサークルからピラをもらったり、先輩から説明を受けたりと、新しい出会いにワクワクしていることでしょう。

学生生活を豊かなものにするためにサークルを探しているみなさんに、自信をもっておススメするのが、数あるサークルの中でも圧倒的な伝統と実績を誇る文連加盟の文化系サークルです。学生らしい創造力でエネルギーギッシュに創作活動に励んでいる芸術サークルや、既成の枠にとらわれないことなく批判精神を発揮して理論研究にうちこぶ学術サークルなど、多様なジャンルのサークルが早稲田の学生文化を最先頭でつくりだしています。みなさんも私たちと一緒に文化創造の楽しさを味わいましょう！

以下では、サークルの諸権利を守りながら伝統を引き継いできた私たちのとりくみを紹介します。

早稲田のサークル活動の中心地 学生会館

多様なジャンルのサークルが結集し、活発に活動をくり広げています。たくさんのサークルが稽古や練習を毎日積み重ねているので、音楽や演劇の練習室は予約でいつもいっぱい。部室をはじめ会議スペースやラウンジでも、つねにどこかのサークルがミーティングや勉強会を熱心に行なっています。

早稲田演劇の発信地 大隈講堂裏部屋

専用アトリエを有した演劇研究会、劇団木霊と舞台美術研究会の部室がある、歴史と伝統の刻まれたスペース。中からは今日も稽古の音が聞こえてきます。演劇公演時には小劇場さながらの舞台が出現！ 脚本・演出・衣装・美術・照明等々すべて学生の手でつくりあげる早稲田演劇の伝統が息づいています。



サークル企画の実現に向けて協力して作業を進める (B2F 作業テラス)



今日も学生会館にはサークル員が集まり賑やか。



くまうらの歴史とともにそびえたつ木と長屋
くまうらの場所はp1のMAP参照



(上) 演劇研究会「THE STAGE」稽古前のストレッチの一幕。
(下) 同「アオハル・ネゴシエーション」本番前のアップ中のショット。
〔写真提供 演劇研究会〕



サークル交流誌「文化の交差点」。文化企画の告知や観劇評などを掲載し、ジャンルの違いを超えてサークルどうしの誌上交流を実現。キャンパス内外にも発信！

共通の趣味や関心を持つ仲間との協同研究や協同作業をつうじて、ひとつのものをつくりあげる達成感を感じたり、人間関係を学んだけるサークル活動は、授業だけでは経験することのできないかけがえないものです。早稲田のサークル文化活動のよき伝統を、一緒に体感してください！

サークル活動への規制反対、サークル補助金の大幅増額、学費値上げ反対…

サークルの諸権利を守り・発展させるために とりくんできたこと

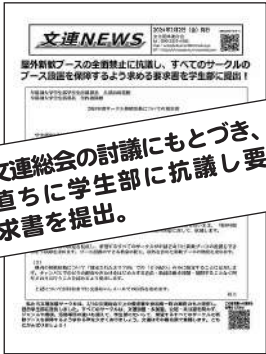
毎年、屋内外の新歓ブ
ースの設置をがちと
り実現してきた早稲田
統の新歓風景が…



今年「9号館
工事」を理由に、
屋外ブースが全
面禁止に！
ブースの設置は
10号館内だけ！

文連のもとにサークルが団結し、学生部による屋外新歓ブース禁止決定に抗議

二十四年度新歓を控えた一月二十六日、学生部は、例年四月の新歓活動で設置を認めさせてきた屋外の新歓ブースを一切禁止し、一〇号館教室だけしかブース設置をしないことを一方的に決定。新入生にじつくりとサークルの説明をしたり、ブースがあることで新入生にサークルを知ってもらえる機会が増えるといったサークルの実情を顧みることのない一方的な当局の決定に、サークルからは怒りの声が噴出しました。二月一日文連総会で当局に対する抗議と要求を行うことを一致し、翌日要求書を出しました。



文連総会の討議にもとづき、直ちに学生部に抗議し要求書を提出。

文連の要求で実現した、サークル活動規制の緩和

音楽演奏会、演劇公演などの観客をともなう文化企画はほぼオンラインだけに限定
(2020年8月以降)

↓

生きた音楽や演劇を届けてこそステージ！
有観客公演をみとめるよう繰り返し学生部に要求

↓

2022年秋にみとめさせる！

学生会館・隈裏部室の開館時間の22時への延長！
2022年7月4日

体育部でだけ認められていた合宿の解禁！
2022年7月13日

部室・サークル活動施設の人数制限の緩和・撤廃！
2023年2月3日

2020年3月、感染対策を理由にキャンパスとサークル活動施設を閉鎖、対面でのサークル活動全面禁止

↓

サークル活動施設の早期開放を求める要望書提出

↓

2020年8月に学生会館・大隈講堂裏部室の開放をがちとる。都内でも先駆けてサークル活動を再開させる。

コロナ下も、協力して当局に
対する要求を積み重ね、感染
対策を理由としたサークル活
動の制限緩和を認めさせる



昨年6月8日の愛大学生自治会の学生大会、役員の見学処分反対、自治会・サークルつぶし反対の声をあげる。
(写真は愛大自治会 HPより)

大学当局が学生自治会・サークルつぶし自由な愛知大学を守り抜くため奮闘する愛大生

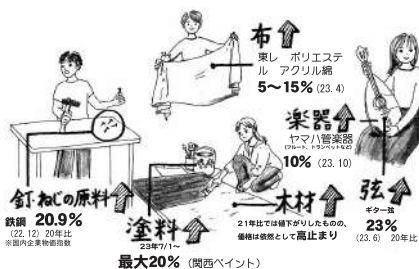
政府・文科省の指導を受けた愛大当局は、ウクライナ反戦デモに「愛知大学学生自治会」ののぼりを持って参加したことを理由に、自治会役員三名を「退学処分」にしました(昨年九月十五日)。前代未聞の言論弾圧に抗議した愛大自治会に対しては、自治会の「非公認」を決定したのです(昨年十一月七日)。同時に、社会問題を批判的に研究しているサークル二団体を、研究内容が文科省の「厚生補導」なる基準に照らして適切でないという理由で「無期限活動停止」にしました。

大学当局や政府に批判的であるとみなせばサークル活動さえも処罰の対象とする——こんな暴挙を、「言論・表現の自由」「学問の自由」「思想・信条の自由」が最も重んじられるべき大学において許してはなりません！
愛大生は処分の撤回を求めて抗議行動をねばり強く継続しています。
早稲田の学生も愛大生と連帯して声をあげよう！

サークル補助金の大幅増額を求めよう!

昨今の物価高騰は、サークル活動を行ううえで深刻な問題です。木材やペンキ、印刷用紙や文房具から交通費や機材運搬のためのレンタカー代、ガソリン代にいたるまであらゆるものが値上がりしているため、私たちのサークル活動経費は大幅に増えています(左図参照)。

しかし、サークルに支給される補助金支給額が極めて低額に抑制されているため(二十年あまりで、一度も増額されていない!)サークル員の財政負担は増える一方です。サークル活動を今以上に発展させるために、財政的な保障をかちとることは切実な課題です。大学当局に対してサークル補助金の大幅増額を強く求めていきましょう!



国立劇場と国立演芸場の閉鎖(昨年)をはじめ、首都圏だけでも2026年までに大小20館あまりの劇場が失われようとしています。その多くが劇場の老朽化や物価高騰による収支悪化によるものです。昨年8月には、日本の自然科学研究を支える国立科学博物館(右写真)が資金不足による運営の危機を訴え話題になりました。

問題は政府の文化予算が諸外国と比べて圧倒的に少なく、文化事業への公的支援が非常に貧弱なことです。岸田政権は、年間8兆円もの軍事予算を確保するために文教予算を削減しています。私たちは文化を軽視する風潮に抗して、早稲田から自由で創造性あふれるサークル文化をつくりだしていきましょう!

相次ぐ劇場閉鎖、国立博物館や美術館の資金難...

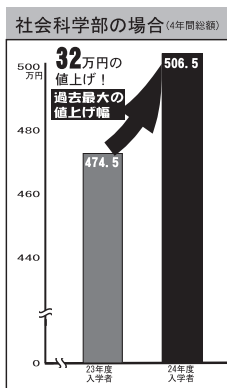
文教予算の削減、文化活動への支援不足は深刻な社会問題です



今年度からの大幅な学費値上げに反対しよう!

今年に入ってからもお続けている光熱費や生活必需品の高騰は、早大生の家計を直撃しています。この折に、昨年早大当局が突然・一方的に決定し発表した二十四年度からの学費の大幅な値上げは、学生・父母の経済負担を増大させ学生生活を困難にするものであって、絶対に許せません。

経済的理由でサークル活動を諦めたり、学業の継続を断念する仲間をうみだしてはなりません! これ以上の学費値上げに反対しよう! 困窮するすべての学生に対する学費減免・経済支援の拡充を当局・理事会に対して求めよう!



「言論・表現の自由」「平和主義」を否定する憲法改悪にサークルから反対の声をあげよう!

サークル活動をつうじて表現活動や理論研究に携わる私たちは、憲法で保障された「言論・表現の自由」「平和主義」を否定する岸田政権の憲法改悪に反対する声をサークルからあげてきました。憲法九条の否定を核心とする改悪と大軍拡を推し進めると同時に、これを下支えする軍事研究の拠点として大学や研究機関を動員することをねらう岸田政権の策動を許してはなりません。

私たちは、岸田政権の戦争政策に抗して声をあげている教職員や文化人・知識人の方々と連帯して、改悪に反対する声をサークルから引き続きあげていきましょう! 学校や病院を標的にしたイスラエルのガザ攻撃に反対しましょう! ウクライナの文化や言語を破壊し、民族と国家の抹殺をねらうロシアのウクライナ侵略に反対しましょう!

ウクライナの文化、言語、民族を国家もろともに消し去ることを狙った、ロシアの侵略を許してはいけません! 写真はロシアの空爆で破壊されたマリウポリの美術館(上)と劇場(下)。

